

上海二零二零

芸術研究科 造形表現専攻 写真・映像領域 博士前期課程
2022年3月修了

陳翌鋒

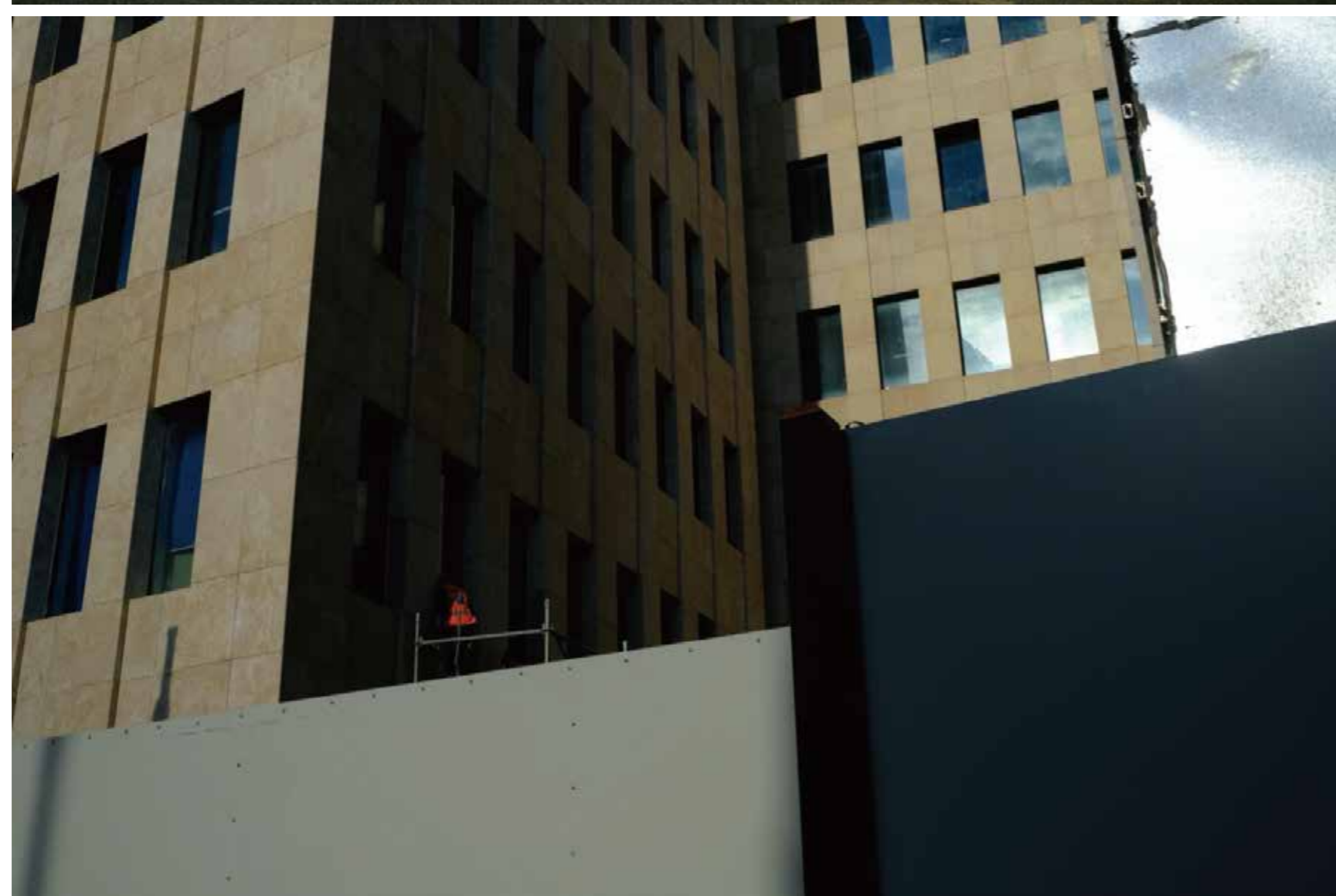
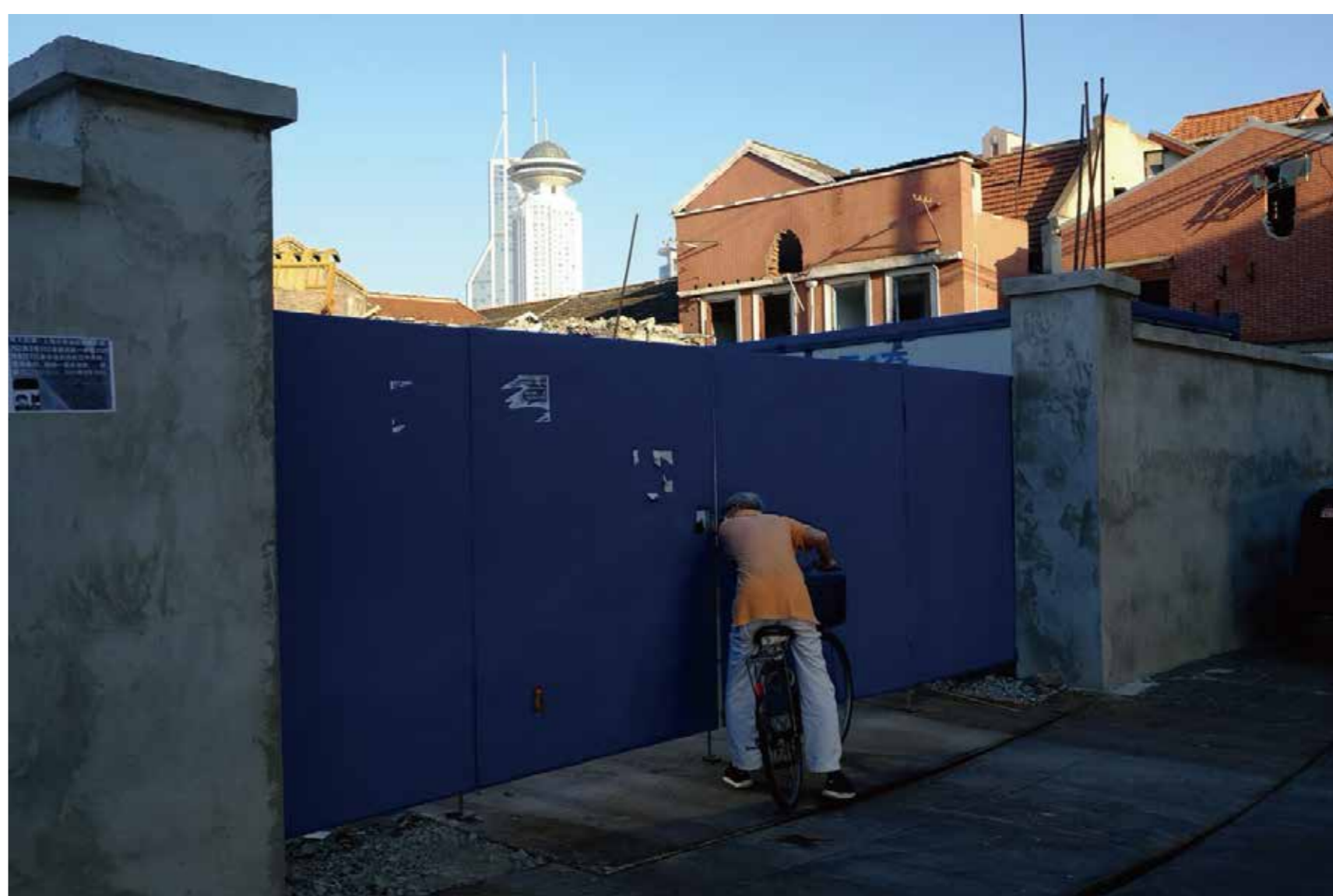
主査 百瀬俊哉 副査 大日方欣一 佐藤慈

作品制作の背景

2020年の上海は、コロナ禍にもかかわらず、街の発展は常に継続しており人々の生活も進行しています。同時に古くからある街の立ち退きも進行しており、上海の街は、古から新へと向かう過程です。いたるところに工事の現場があり、都市の発展の裏には、立ち退きによって発生した住宅問題など、多くの社会問題をはじめ、貧富の差や移民労働者の生活環境などの数々の問題があります。私の故郷、上海は、華やかでありながら、エキサイティングな都市です。

作品の解説

今回の作品はドキュメンタリーより、パーソナルスナップショットと言ったほうが、ふさわしいと考えています。これらの作品は主に路上で撮っています。被写体は毎日のように、上海で出会った様々な事物です。自身の視覚において、この街には多くの面白いシーンと出会うことがあります。上海は発展のスピードが早く、毎日街に変化が起きています。だからこそ、いま記録する必要があると考えました。私はそれが写真の存在価値の一つだと考えています。



指導教員コメント

大都市である中国、上海をスナップ写真で記録している。自身が過去に住んでいたエリアなど、住居の立ち退きなどで起こる街の変化や、人々の日常的な生活エリアなどを撮影している。改革開放政策を経た今だからこそ、生まれ変わっている中国の都市を、独自の視点による表現で、現在の上海の様子を丹念に捉えた作品である。

百瀬俊哉